

2017.11.28 (火)
 (株)大阪共立 川本由貴

・複合施設にする場合

舞台の奥行、間口を確保したところで、舞台吊物装置の設置には高さが必要（およそ建物5階部分）それを鑑みると、ホールは単体で建てるだけの容積が必要。諸施設が複合施設との遮音の問題もあるため、別棟が望ましい。

ホール機能の観点から申し上げますと、舞台催事内容によるが、吹奏楽、和太鼓の「音」、ダンス等の「振動」は特に下に響く。ホールは1階部分が望ましい。

合唱コンクール、吹奏楽コンクールを誘致することがあるとしたら、ホワイエなどで練習することがでてる。その際にホール単体でないと、他施設への騒音の問題がでてくるかもしれない。

・防災面からみると

ホールは座席がしっかりしており、防災面でかなりの人数を収容できるように思われるが、3.11の際、天井崩落、プロセニウム上部乾式壁崩落など吊物の落下が多数発生した。舞台上・客席には様々な重量物を吊っているの、地震の際、客席への避難誘導は危険である。劇場が避難所として指定される場合は、ホワイエや諸室、体育館のような平場のリハーサル室に避難者を誘導するため、そういう観点で部屋数や諸室の広さを意識するべき。

・川本案

あくまでも個人的な意見だが、広場を囲うL字型の建物構造を提案する。

ホール機能と子育て支援・図書スペースを遠ざける形で遮音・振動を最小限にする。

イメージは可児市文化創造センター <http://www.kpac.or.jp/outline/>

ガラス張りの複合施設から広場をよく見渡せ、広場からも入りやすい構造になっている。

